

湘南みちくさクラブニュースレター Vol.1, No.4 (2016.9.20)

南伊豆マングローブについて

< 本会会員の村山さんからの投稿です。 >

以前よりマングローブが好きで興味がありましたので、きっかけは思い出せませんが、南伊豆にあるらしいことを知っていました。湘南みちくさクラブへ入り、辻堂海浜公園プール入口横のハマボウがマングローブであることを教えてもらい、上記のことを思い出したのです。そこでネットで調べて、8月12日、海水浴シーズンですが海ではなく二つの河口にあるマングローブを見に行ってきました。南伊豆はマングローブ生育地の「日本最北端」と言われています。

一か所目は南伊豆町の青野川河口付近です。

青野川河口付近には2つエリアのマングローブがありました。

新湊橋のたもとに広がるのがハマボウの群落です。堤防外に公園のように整備されているものと川岸、中洲状の部分にもハマボウがありました。堤防外の群落は近くまで寄れますので幹の太さに、そこに長いことある力強さを感じました。

もっと海側の対岸河口近くには、メヒルギとハマボウが人工の石垣で守られた汽水域に植えられていました。メヒルギはいかにもマングローブらしく、根元が何本にも広がって根付いているのがよく観察でき、まさかこんな近くでと感動しました。

ここは人工的なマングローブとして管理されているようです。

経緯は土木事務所の看板に記載されていましたが、1959年に種子島から導入したところ根付いて今日まで至るようで、メヒルギの世界最北限になっているようです。



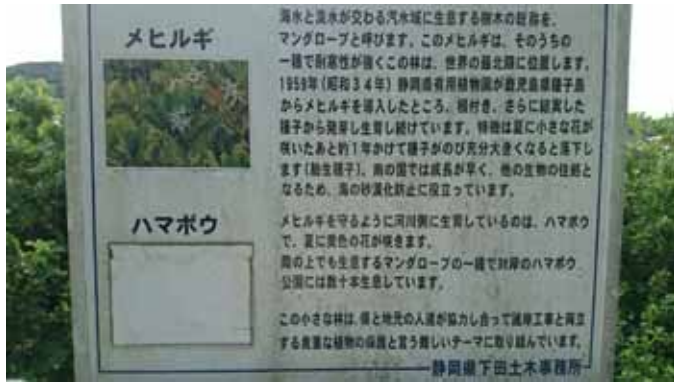
青野川河口のマングローブ



メヒルギとハマボウ



土木事務所の看板



メヒルギとハマボウの説明看板



メヒルギ（板根を持っています）

もう一か所、下田市に戻り、大賀茂川河口（海水浴場）付近のハマボウの大群落です。

実は青野川へ行く際、知らずに通過していた場所でした。よく調べずに行くとういことになります。

ここはすべてが汽水域に群生していますが、中を散歩して歩けるようにボードウォークが整備されています。ちょうど干潮でしたので、かなり川側に行かないと水はありませんでしたが、水が干上がった泥面には一面カニの穴があり、人が近づくと一斉にかさかさとして歩いて穴に隠れていきます。

子供たちが棒に糸を垂らしてカニ釣りをして遊んでいるのに出くわしました。エサはすめです。

生活のすぐそばにこんな環境があることにとてもうらやましく思った次第です。

それでも、東京からそんなに離れていない南伊豆でこういう場所があることにとても感銘を受け、これからも守っていかねばならない大切な自然であることを感じました。



ハマボウ群落内のカニ穴
（手前にボードウォークが見えます）



マングローブ林床内のカニとカニ穴

今後に向けて（雑感）

帰り、海水浴帰りの車で大渋滞に巻き込まれてしまったことは言うまでもありません。

湘南でマングローブ群落とまではいかないかもしれませんが、今回の観察で人の努力は無限、自然の力は偉大であることを知り、いつかは？思わざるを得ませんでした。地球温暖化に頼ってはいけませんが、

引地川は富士見橋あたりまで確か汽水域になっているように思います。ハマボウならと思った次第です。 以上